

大分市報

毎月1日に発行
発行所 大分市役所
編集兼発行人
兼 田 俊 子
印刷所 高木印刷工業

大分市政だより

市の栄光に悲願をこめて

市上長田
口ザリオ頒布で渡米

日本キリシタン文化センター建設のため、市政の傍ら過去六ヶ年間にこの事業遂行の資金源となる製鉛ロザリオの製作を続けてきた田中市長は、ようやくここに大量生産を見通しがついたので、この朝海駐米大使、同館原田商務参事官と会い、ロザリオ販売についての市場調査報告を聞くとともに、先に田中最高裁長官から紹介状を出されているスベルマン枢機卿や、フルトン大司教と二月初十日頃の予定となっています。出発に先立ち田中市長は、「二十日にわが市政を留守にすることは、誠に申し訳ないが、市の市長職務代理者には、助役の東玉彦氏になりました。」

留守中あつくお願いしました。」といっていました。

大分市長職務代理者に 十一月
大分市助役東玉彦氏
から上田市長渡来のため、留守
の市長職務代理者には、助役の
東玉彦氏になりました。

**未歸還者最
みんなて**

米帰還者の最後の全国一斉調査が、三月三十一日まで行われま

と皆様に期待して頂ける大きな成果を持つて帰国しますから、

のため穀米することにした。きつ

の緒についたので、その畑布の

口から、過去八カ年間続けたきた

りざら、過たなくおよやく七億生

ニューヨークでは、かつてこの事

業に十萬円の寄付をされた世界的

な宗教用具商、アジャツク・フア

上田市長の涙米は約一週間の予

定で、米国滞在中はワシントン／エンガロ氏をはじめ、三井、三菱

品輸送のために、同行する連中と一緒に会見。ロザリオ侯伯について

ハタテ学教授田北孝次と、去る一

日二十日に急行高千穂丸でニ

上京。二十五日後十時羽田発出

船機で穀米の途にきました。

未歸還者最後の調査

みんなで捜しましょう

未帰還者の最後の全国一斉調査が、三月三十一日まで行われます。戦後十三年たつた今日、なお全国で三万六千余名、大分県では七百三十八名、大分市でも四十七名の未帰還者があり、しかも、その大部分は生死不明の状態です。留家族の方にとっては、この調査で、未帰還者の生死が決定するという重要な調査だけに、大きな期待を寄せています。皆様も留守家族の人たちの心中を察しこの調査に協力して下さい。

調査方法は、大分県内の未帰還者の名簿を自治委員と自治運営委員を通じて、各家庭に回覧します。で、外地から復員してきた方、又は引揚げた方、名簿を見て消息のわかつている方がありましたら、空欄のところに、わかつている範囲のことをくわしく記入して下さい。

市民の声

去る一月十三日米國第七艦隊の旗艦「レナ号」が入港した筈であるといふので、聞きに行つたこの種音楽会はこれまで再三行われ、その度毎に同園が使用されてきた。だが問題はその場所にある。

これらが間断なく不協和音をなつてゐるからだ。
演奏途中いたたまれなくなつた私は、近くから放送屋に連絡

騒音の中

西新町

騷音の中の親善日米演奏会

西新町 佐藤 哲

確かに人集めにはよい位置かも知れないが、野外音楽会場としては、言わねども不適格だ。これはこの周囲が交通量の多い道路で囲まれ、ステータスは道路横は悪臭放つ便所や、有線放送のマイク、さらに付近は有名なパチンコ銀座街がある。しかも「事情はよくわかりますが、折悪しく社長は長くないので、スポンサーのてまえ放送を中止することは出来ません」という。「音量制限もできないか」というと「これ以上ボリュームを下げ

寄附

市社会福祉協議会は次の方から
香典返しにかえて、金一封のご寄
附をいただきました。ご芳志のほ
ど、厚くお礼申し上げます。

佐藤源吾氏	新中島南十二組
足立 直氏	萩原東 組
三木福寿氏	舞鶴町九組
衛藤 護氏	中央通り
早玉経次郎氏	南谷町町東一組
また大分町賀賀津淵野亮己氏	浜町
北七組加藤 男氏	南谷町町東一組
組尾まつ子氏	結屋町四組小形徳

封を、船頭町婦人会代表後藤鼎代氏、大分駅裏山内食糧斉藤克己氏から、それぞれわがば園に金一封のご寄附をいただきましたので、併せて厚くお礼申し上げます。

今が越冬驅除の時期
モデル町内はスライドに

除染適期は到来しているの、衛
同課では今年は更に活動を強
下さい。

課では、次の点を強調呼びかけるため、各町内駆除活動の状況は、次のように報告されています。

① 各町内でも、算編成をされると思われるので、既設の消毒器、薬品の整備を行い、諸修理や新たに諸器具の購入を希望する町内は、早目に購入計画をたてよう。

② 各町内では、この秋には協働感謝の意味で、「町内幻灯会を開催したい」とつています。

③ 写真は倉庫から出した消毒器、近所の婦人点検する中島北衛生組合長さん。

また各参加団ではこの際ミサ
 こ数日はまったく小春日和
 わせる暖さ。気象変化は今後
 なるか予想できませんが、一
 寒波でハレツ
 九百件



旬の寒波襲来で、市内水道事業
続出し思わぬ損害を受けまし
今度の事故は凍結による水
水せん胴の破裂によるもの
一月十七日から五日間だけ
事故件数九三一件、約七万
度の被害を生じました。



量水器の売却
水道課では次の品を一疊
争入札により売却します。
○場所 二月七日午前十時
市役所三階第一会
室。
○品目 口経十三ミリ量水

ない。
客官にても心中無神経でいれるはずもなく、道義心から、彼の積極的な行爲を期待したのだが、駄目だった。こうして今日の日米親善音楽会は終つた。

アンコールもなく、低調な空気のなかで散発的な拍手が痛く松の耳を刺し、この日の厚意をみたすに如何に場所が大切であるかを痛感した。それにしても、渡米中の上田市長が、キリシタン文化センター建設事業の中心、音楽堂を造ることを市民に約束したが、私達の時代には聞かへずとも、せめて子供達の爲に一日も早くこれが実現するよう祈つてやまない。

三五〇圓。

なお、入札保証金は入札金の百分の十以内です。

家族一人に一口

幸運の郵便定額貯
第十六回幸運の定額貯金
月一日から、三月十日まで
の郵便局で一せいに売出され
この贈増金付の定額郵便貯金
一口千円で、特賞は(A)が三
(B)が十万円以下六零零
抽せんは三月十日までです。

「承り箱」の利

大分警察署では昨年九月
市内各所に「承り箱」を設
様のご意見を聞いています
は無記名でよいので、お気
に利用して下さい。

大分工業高校

定時制生徒の募集

八分工業高校では定時制(夜間)生徒の募集を行っています。

募集生徒は機械、電気、建設課程共に約三〇名で、出願期は二月十日から二十五日正午で。

ちようど四年前のことです
ボストン・バックただ一個

ら下げて大分の駅頭に下りま
は、駅前から新川まで、だ
びうい殺風景な大通り一本
心に広がる市街に云いよう
い失望の念を禁じえなかつ

頃ながらいかにも野暮つた
さんたちが、大手を振つて
ている。

「こんなところでオレはいさ
ら何年間かを過ぎさねば
ならないのか」そんな

ところがそれから四年、大分の街はなんと変わったことだろう。都心の象徴的なビルだったトキハは、大幅な増築を断行し、店内外

を通過してデデツクスな
変身をとけたし、アバ
ンター、県立病院、電通
センターなど新しいい
ルが、つぎつぎと誕生
ちがえるようによくなつた
わつたのは都市の表情だけ
ない。大分という土地に生
人たちの生活がまたもの
方が大きく前進してきた
私はなんの気もなくしにふら
デパートや商店街のショ
ンドをのぞいて回るのが好
が、なんとデパートに入つ
るお客さんたちの服装や、
輝きが増したことが。キ
と光るイヤリングにネツク
ス（私はそれがニセモノな
だ）にトツプモードのミヌ
セが溢れてゐる。手探

定で、願書提出と同時に納入する。

テキストの申込

日本短波放送

日本短波放送では「中小企業税

「簿記講座」を来月九日から毎週
一回、一時間にわたり行ふ。講師
国税庁所得税課の久田重次郎氏
ニキスト希望の方は、二月十日

すんなり伸びたハイヒールの音が軽やかに階段をハネ上つて、美しい女性のエリ下からのぞかれる白磁の肌は、すでに昔の女分にみられた田園調のそれではなく、現代に生きる磨かれた趣情緒をにじませていることは

事實なのだから……。

昼間でさえこんな情景だ。夕

焼け雲が別府灣の彼方に消える

と、待つていたかのように夜の

巷でムードミュージックが鳴る

す。シエーカーを振るバーニ

ンの黄金の腕が、流れるリズムのテンポを速めているかのようだ。ごくさいきんまで大分の人たちに親しまれていなかったイホールやジンフイーは、いまや寒に自然

に食ふことなされてゐる。勤め帰ららしい如
さんたちがスタンドで
軽く、ビールのジョツ
をあけ、これもなげに
紫煙をくゆらすのは普
通のこと。バーならず
とも暗い喫茶店の仕
隅でさえ、肩をすり寄

せぬたアウロウシツに
恋の美酒をしみじ
くみず。そして花
は大胆なフニツク
着こなしはなやかなダンス
の彩りで花を開くのだ。すつ
と酔いが回つてしまつた私の
心には、ふつと大都会の一隅に
浮んでは消え、浮んでは消
え、だがふらつく足を踏みし
ながら帰る道は、つばり大分
のた。

いつも私はコツツとコンク
トの道路が靴音をねかえ
てくる深夜の帰りの道で、「ほ
とにこがが分かるなあ」とつ
てない自問、回答をくりかえ
している。

(筆者) 西日本新聞社中野記者

大分市のムード

は大胆なイフニンな
着こなしはなやかなタンサ
の彩りで花を開くのだ。すや
や酔いが回つてしまつた私
には、ふつと大都会の一隅に
き去りにされたような幻覺
浮んでは消え、浮んでは消
る。だがふつと足を踏みし
ながら帰る道はやつぱり大
きだ。
いつも私はコツコツとコンク
トの道路が靴音をほねかえ
てくる深夜の帰りの道で、「ほ
とこに自分が大分かなあ」と
思ふ、ホ
ない自問 自答をくりかえ
ている。
（筆者） 西日本新聞社中野記者

